

## 「第4次調布市子ども読書活動推進計画(案)」に対する意見(図書館協議会)

(1) 意見の募集期間 令和4年7月21日(木)～令和4年8月31日(水)

(2) 意見の概要と意見に対する市の考え方 別紙のとおり

※御意見は、原則、いただいた原文を基に掲載しています。

(3) 「第4次調布市子ども読書活動推進計画(案)」変更箇所

●第3章 基本的な考え方 目標4

(元) また高度に情報化している現代社会においては、

多様な情報の中から自分の求めている情報を見つけ出せる能力が求められています。

(変更) また高度に情報化している現代社会においては、

様々なメディアから発信される多様な情報の中から自分の求めている情報を見つけ出せる能力が求められています。

●第6章 学校・行政の取組・計画 2 市立図書館

(1) 選書の重視と蔵書の充実

(元) 質の高い英語絵本の収集に留意します。

(変更) 「調布市立図書館児童資料の収集等に関する方針」に基づき、質の高い本を的確に選ぶよう努めます。

英語絵本の収集にも留意します。

(9) 学校との連携の充実

(追加) 図書館ガイダンスについては、市立小学校と連携し、特別支援学級を含めた学級で実施するよう努めます。

(4) パブリックコメント実施期間 令和4年11月21日(月)～令和4年12月20日(火)

	提出された意見	市の考え方
第3章	すばらしい考え方だと思います。計画通りになることを心より望みます。	計画に基づき実施します。
第3章 基本的な考 え方につい て	p6 子どもの発達段階に応じた読書環境を整える目標は整っていると思います。 それぞれの家庭環境が違うので、家庭との連携・協力は難しいものもあると思いますが、本に触れる機会を増やして欲しいと思います。小さい時に読書の喜びを身につけ、目標4『読書で「生きる力」をはぐくむ』へ続けて欲しいです。	計画に基づき実施します。
第3章 基本的な考 え方につい て	p6 「多様な情報の中から自分の求めている情報を見つけ出せる能力」いわゆる情報リテラシーの育成は今後ますます重要になります。 ”デジタル（インターネット）情報を含む”多様な情報～とあえて強調してもよいように思います。	「”様々なメディアから発信される”多様な情報～」という文言に変更しました。
第4章 家庭と地域 での取り組 みについて	本がある家庭で育つ子は本を好み、図書館を利用することも知っていると思います。子どもが本を手にする機会を増やすには保護者の役割が大きいと思いま す。 保護者（大人）が図書館を利用しやすくなる工夫が必要と考えます。 返却BOXをスーパー・駅・病院におくことからはじめてはどうですか？	貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。
第4章 家庭と地域 での取り組 みについて	P8 保護者の役割はとても大きいと思います。 保護者に働きかけて、子どもと親が読み聞かせなどの会やイベントに参加して、本の楽しみを得る機会を増やしていけたらと良いと思います。参加しやすいよ うに、時間や場所が多くあったら良いと思います。	計画に基づき実施します。
第4章 家庭と地域 での取り組 みについて	8ページ 「保護者が家庭に本を置きた率先して読書を親しむことにより、子どもの読書への関心を引き出し、家庭内での読書環境を整えること」について ・保護者による学校アンケートでは、「子どもが家でよく読書をしている」の項目についての評価が毎年低い傾向にあります。家に本があり、保護者がよく読 書をしていたり、図書館によく行く環境にある子どももいれば、読書環境があまりない家庭もあります。保護者の方の読書への意識を高める取り組みはとて もよいと思います。保護者への啓発について、よいアイデアがあれば、学校にも教えていただきたいです。	学校と情報交換を行いながら、保護者への啓発を進めていきます。
第4章 家庭と地域 での取り組 みについて	・第3章の目標4（p.6）には、「楽しみを広げる」「知識を得る」「調べる」「多様な情報の中から自分の求めている情報を見つけ出せる能力」「生きる力」 「考える力」を育む、などの言葉がありますが、どうしても物語を読むことが中心になっているように感じられます。 第4章でも、絵本の読み聞かせや子どもの本に関わる催し、推薦図書リストの作成などがありますが（p.8）、ここにある「読書」は、第3章に書いてあった 「調べる」や「情報を見つけ出す」とは異なるように読めてしまいます。  小学生の子どもを持つ保護者の方や、小学校の先生方とお話をしていると、「夏休みの自由研究」に困っている方は未だ多くいらっしゃいます。テーマの見 つけ方や、百科事典や図鑑の使い方、まとめ方などについての講座（？）があってもよいのではないかと思いますし、もうすでに開催しているようでしたら、 それをもう少しアピールしてもよいのではないかと思います。	第4章に記載した「読書に親しむ」ことで、「調べる」「情報を見つけ出す」力を身に付けられるよう、読書活動を推進してまいります。  パスファインダーや「図書館で調べものをするときに…」 「としょかんのつかいかた」の発行を行っています。 計画に「子どもに図書館の使い方や情報の調べ方を伝える事業を行います」と記載しており、今後開催を検討します。

	提出された意見	市の考え方
第5章 策定後の取組・成果・課題について	不読率の高い中学生・高校生にどうアプローチしていきますか？ 小学生の頃は年2回読書週間があり、義務的に本を10冊前後借りていました。そして、長期休みにも10冊前後借りてきました。 中学生になると、そういったことは全くないです。(学校によるのかもしれませんが…) 中学生にも高校生にも少し義務的にでも、本を手にする機会を学校で与えることも必要かもしれません。	中学生・高校生を対象とした事業を実施し、学校や青少年交流館等を通じてPRしていきます。
第5章 策定後の取組・成果・課題について	P9 講座が開かれているのを続けて欲しいです。 興味を持っている人は多いと思います。 P11 おはなし会のテーマはおもしろく、子どもは興味を持つと思います。 貸出しセットは、自分では触れない分野の本に触れることができる楽しい企画と思います。 たくさんの工夫がされていることがわかりました。	計画に基づき実施します。
第5章 策定後の取組・成果・課題について	p10(協議会配付資料2だとページa,b) 市立小学校・中学校 課題(4)として、学校図書館マニュアルの作成が挙げられています。以前、マニュアルについて調査を行ったことがあるのですが、調布では学校司書が主体になってマニュアルが作成され、毎年改訂されていると伺いました。また、学校図書館支援の担当者もいらっしゃるように記憶していますが、現在は配置されていないのでしょうか？ ・p10-14 市立図書館 YA世代向けの事業について。市内の大学との連携を模索できないでしょうか？	教育会館内に学校図書館支援センター機能を設け、学校図書館支援の担当者を配置しています。 大学等との連携については、貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。
第5章 策定後の取組・成果・課題について	第5章 策定後の取組み・成果・課題について 10ページ 市立小学校・中学校の評価について ・計画を立てても、質の高い読書指導の実施が難しい面もあります。学校の教員への読書指導、図書を使った学習指導の研修の機会が更にあると嬉しいです。 11ページ、12ページ ・「小学生の読書会」は本が好きな児童にとって楽しい機会だと思います。他市で「小学生の図書館員体験」のようなものを聞いたことがあるので、小学生向けのイベントをたくさんやっていただけると嬉しいです。また、イベントがある時は、チラシやポスターなどで、更にお知らせいただけると嬉しいです。 小学校では、図書の時間が確保されている学校が多く、授業内に学校図書館に行く機会が多いのですが、中学校に進学すると、学校図書館から足が遠のいてしまう生徒も多いかと思うので、中高生を対象としたイベントや取り組みや、新入生歓迎号の配布がとても素晴らしいと思います。中学生や高校生が作成したポップやおすすめの本を、6年生に紙面で紹介していただくなど、小学校から中学校の連携がはかれる機会があるとよいと思いました。 ・調べ学習の時に、たくさんの資料を貸出いただき、とても助かりました。	・「学校の教員への読書指導、図書を使った学習指導の研修」については、指導室へ伝えます。 ・イベントがある時は、チラシやポスターなどで、学校へお知らせします。 ・「小学校から中学校の連携がはかれる機会」については貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。
第5章 策定後の取組・成果・課題について	・p.13-14の課題に、YA世を引きつける事業の検討、YA世代を引きつける展示を継続、という言葉が出てきています。 p.14には展示資料の一覧を図書館ホームページに掲載してほしいという市民からの要望という言葉も出てきますが、大人でもHPのほうが楽だと思うくらいなので、YA世代はもっとSNSでの発信を求めているように思います。 YA世代がいま一番使っているのはInstagramやTwitter、LINEなどのSNSですので、図書館のSNSアカウントを作成して展示しているものを掲載したり、お知らせを送ってみたりするのもいいかもしれません。オススメの本も、リストでHPに掲載するよりも、1冊ずつツイートしたほうが読まれる可能性は高いように思います。	SNSの活用について、検討します。

	提出された意見	市の考え方
<p>第5章 策定後の取組・成果・課題について</p>	<p>★市立小学校・中学校 の項目</p> <p>「聴覚障害・知的障害の子どもが図書館を利用するにあたってのサポート方法などについて検討が必要です」（p 14）</p> <p>聴覚障害のおおさんは、聾学校に通うなどされており、調布市立小中学校におられるかたは少なめだと思われます。</p> <p>が、知的障害のおおさんについては、調布市立小学校、中学校の特別支援学級に在籍しているかたが、2022年度で、小学校145名、中学校67名います。</p> <p>ちなみに、特別支援学校は、小学部96名、中学部71名ですが、これは調布だけの数字ではなく、三鷹市、狛江市、調布市の総数です。調布市民だけでいうと、もっと少ないと思われます。</p> <p>特別支援学校に比べ、特別支援学級、小学校145名というのは、少ない人数ではないと思います。</p> <p>この方たちは、特別支援学校に通うかたと比べると、知的には高めのおおさんが多く、読書ができる（好きな）おおさんが多く含まれています。</p> <p>このおおさんたちが、小中学校在籍中に一度は調布市立図書館に行き、貸し出しカードを作るかどうかは、そのおおさんたちの将来にむけての、大きな機会と情報の提供になり、その後の人生にも関わることだと思います。</p> <p>（大人になった知的障害の人達を見ていると、実感として、そう思います）</p> <p>特別支援学級のおおさんむけの読み聞かせなども同じです。</p> <p>ネット依存、ゲーム依存が増えている、といわれている現代で、ゲームやネットが使えなくて本を読む以外ないのは、学校とか、児童館、学童クラブなどだけです。</p> <p>ぜひ、そういう場で、物語の世界の楽しさを彼らに伝えられたら、と思いますし、おすすめ本なども見せて、図書館（または学校の図書室）で本を借りる経験が増えたら、と思います。</p> <p>私の意見としては、物語を読んでほしいところではありますが、将来の仕事を考える参考になる本や、心の育ちに関する児童向けの書籍などもたくさんあると思います。</p> <p>（友達関係の本とか、コミュニケーションの本など、彼らは結構好きです）</p> <p>きっかけがあったら、その後は、そうした本を学校図書館を通じて、学級文庫に貸し出すなど、何かできないでしょうか。</p> <p>コロナもあり、また、調布の市政に詳しくない学級主任が他市から異動してきたりすれば、調布の図書館から足が遠のくことも十分に考えられます。</p> <p>なので、担任が誰であっても、調布の教育として、持続していける方法、障害のある子どもたちが図書館にアクセスできる可能性をつぶさない方法を考えていただけないでしょうか。</p> <p>普通学級にいれば受けられるサービスや情報提供が、支援学級を選んだら受けられなくなる、というのは、障害者差別解消法にも関わる問題のように、考えら</p>	<p>・計画に「図書館ガイダンスについては、市立小学校と連携し、特別支援学級を含めた学級で実施するよう努めます。」という文言を追加しました。</p> <p>・特別支援学級へは、学校司書との連携協議会や設置校長会議等で情報提供を行います。また、特別支援学級の子どもの保護者へ、図書館のPRを行います。</p> <p>・学級文庫用に、特別支援学級へ団体貸出ししたり、本を寄贈したりしています。</p> <p>・「ディスレクシアの子どもに対するサービスのPRが必要です」については、ディスレクシアの子どもへサービスが活用されていないという現状があるため、課題として記載しています。</p>

提出された意見	市の考え方
<p>れなくもないと感じますし、何よりも本当に残念です。</p> <p>私のつたない知識から考えられるのは、調布市教育プランなどに明文化することがひとつ。 また、図書館司書さんたちが、各学校の学校司書さんたちとつながって、司書さんから支援学級に働きかけてもらう。 市内の特別支援教育コーディネーターや、特別支援学級の担任が集まる機会に情報提供して、お誘いする、などなど、積極的に施策を展開していき、調布市として障害者の図書館利用のハードルを少しでも下げてほしいです。 (以前はやっていた、ということも大きいです)</p> <p>また、知的障害のお子さんへのサービスについて、どんな支援が必要か知り、ニーズにあったサポートをするためには、とにかく、来てもらうか、訪問するかで、直接そのお子さんたちと触れ合って実感する以外ないのではないのでしょうか。 もちろん、指導室の教育支援担当のかたに相談するのも一つだと思います。 (小山課長とか、佐藤麻美係長とか)</p> <p>同じ教育委員会が管轄する社会教育施設なので、もしも、何らかの事情があって指導室に連絡しにくいようであれば、社会教育課を通じるなり、何か連携の方法を工夫できないものか、と思うのですが・・・。</p> <p>(私も調布市教育プランの策定委員なので、力不足ではありますが、教育プランの会議でも発言したいと思っています)</p> <p>ちなみに、知っている小学生などの事例としては、ゲームの攻略本を読んで、漢字をたくさん覚えた子もいますし、攻略本はものすごく厚く、文字も小さく、RPGなどは歴史的背景が書いてあったり、かなり頑張らないと読めない内容のものもあるので、攻略本を読むことで、読む、という行動に慣れる面も多少あるようです。</p> <p>本を読む行為になじむと、原作マンガ本を読み、児童向けの原作本の書籍、関連本などを読み始める子もいます。 だんだん、物語を自分で作ったり、書き始める子さいます。 ですので、ゲームから遠ざけることだけを考える必要はないと、個人的には思います。</p> <p>「ディスレクシアの子どもに対するサービスのPRが必要です」</p> <p>マルチメディアDAISY図書の充実など、ではないかと思いますが、マルチメディアDAISY図書は、ルビがふられたり、文字が拡大できたり、音声でよみあげてもらえるなど、知的障害のかた、弱視などの見える視覚障害のかた、集中が続かない発達障害のかたなどにも有効だと、現在は言われていますし、デージー教科書は、この6月から市内の小中学校で使えるようになりましたが、知的障害のかたも申請して使っておられます。 (全員に貸与されているタブレット端末で使えるようです)</p> <p>なので、学習障害のかただけ、という狭いPRでなく、たとえば、特別支援学級で、マルチメディアデージーのデモを行うとか、図書館で体験してもらうなど、従来とはまた少し違う、図書館利用の情報を提供できるのではないかと思います。 デージー教科書が使えるようになった今、絵本も読みたい、などと思うお子さんがいても、おかしくないと思います。 以上、みなさまお疲れで、お忙しいことと思いますが、 ご検討いただけると幸いです。</p>	

	提出された意見	市の考え方
第6章 学校・行政 の取組・計 画について	<p>p.21 (9) 中学生にもなると調べ学習はすべてインターネット。 調べたいキーワードを入れて、おすすめの本が分かる検索システムがあると「読んでみようかな…」って気持ちになるかもしれませんが、期待はできません。 電子書籍が増えると良いですね。</p>	<p>貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
第6章 学校・行政 の取組・計 画について	<p>P.18 図書館には、子どもの多方面の興味に応じていろいろな分野の本がそろっていると思います。 P.19 電子書籍の導入は最近の傾向で、需要は多いと思います。</p>	<p>電子書籍の導入は、図書館全体の事業計画とあわせて検討します。</p>
第6章 学校・行政 の取組・計 画について	<p>p.18「2 市立図書館 (1) 選書の重視と蔵書の充実」のところに「質の高い英語絵本の収集に留意」とあるのですが、これはどのような絵本を考えているものでしょうか。 質の高い絵本の収集は小学生や中学生が「絵を眺めて国際理解を深める(描かれているものの違いなどから)」ことや、調布市在住の外国人利用者の方のためにはとても良いと思うのですが、新たに始まった小学校英語科や、既存の中高英語科の学習のために使用することは難しいものです。 学習という意味で質が高いものなのか、作品そのものの質が高いものなのか(例えば国際的な賞をとっているとか)によって、どのような絵本を収集するのかが異なると思いますので、この部分はちょっと気になりました。 学習用に質の高い英語の本を収集することは、YA世代を引きつけることにもなります。 先日Extensive Reading Around the Worldという国際多読学会の世界大会に出席してきましたのですが、日本の大学で教えていらっしゃる外国人教員の方々が、公共図書館に学習用の図書があればもっと便利なのと強くおっしゃっていたのが非常に印象的でした。そのときにも、「ほしいのは絵本じゃない」という話が出ていました。 絵本もあってよいのですが、ついでにYA世代を引きつけることもあわせて考えると、ほしいのはもう少し違う図書のように思います。</p> <p>p.19「(2) 情報サービスの充実」のところに、「子どもに図書館の使い方や情報の使い方を伝える事業を行います」とありますが、これは第4章のところにも書いたようにぜひ開催してほしいと思います。そしてぜひ、小学生だけではなく、中学生、高校生を対象としたものも行ってください。</p> <p>p.21「(11) 展示の充実」ここに「調布市Twitter」等に掲載とありますが、先ほど第5章のところで書いたように、可能であれば図書館SNSアカウントがあるといいと思います。</p> <p>p.22「(13) 利用促進・広報活動」も同様です。</p>	<p>・児童書は、「調布市立図書館児童資料の収集等に関する方針」に基づき収集しています。英語絵本も同様のため、そのことが分かるよう、計画に記述します。</p> <p>・英語の本は、絵本以外にも、科学の本や国際的な賞をとったもの以外の本等にも留意して収集しています。</p> <p>・多読の本は、大人からの需要もあり、図書館全体の事業計画とあわせて検討します。</p>
その他	<p>全体的に小学生までのお子さんをターゲットにした計画なのかな…との印象を受けます。 ”本”はとても大切です。悩んだ時、知りたい時、助けてくれます！ インターネットで上辺だけの答えを見つけるのではなく、”本”から自分なりの答えを導いてほしいと子ども達に願っています。 そのためには、本に囲まれる環境も必要ではないでしょうか。 中高生が図書館に足を向けるのは、期末、中間テスト期間でしょうか。 図書館内で思う存分テスト勉強できる環境を与えることで、より”本”が身近な存在になるのではないのでしょうか。</p>	<p>施設的な問題はありますが、子どもの居場所づくりという観点から、中高生世代に向けた取組として、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
その他	<p>図書館が子どもの読書活動に多くの工夫と働きかけをされていることがわかりました。 ブックスタートから始まる親への啓発は大切な、ありがたいことだと思います。 学校(保育園・幼稚園)の働きかけの影響は大きいので、読書の時間を持つ・読み聞かせの時間を持つなど大切だと思います。 誰でもが、図書館に行きやすく、おもしろいと感じられるテーマを幅広く取り上げていただきたいと思います。</p>	<p>計画に基づき実施します。</p>

	提出された意見	市の考え方
その他	<p>P5 学校図書館の児童・生徒1人の平均利用冊数 まったく図書館を利用しない児童生徒はどのくらいいるのか？（平均だと見えない） 読書に対するアンケート調査などをして、不読者の実態、市立図書館の活動への認知度を把握してはどうか？</p>	<p>貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
その他	<p>計画全体については、特に問題はないと思います。 私個人の考えとして、児童に対する図書目録の電子化を望みます。 学校図書館資料の検索が、児童の端末でもできたり、予約に関する操作が端末上で可能になったりすると便利になると思います。（現在は学校図書館ごとに1台、共用で使えるものがあると思いますが。） 児童の端末を使って入力する形にすると学習に利用しやすくなるし、おすすめの本も解説つきにすると利用しやすくなると思います。 紙と電子の良い点を生かすために、児童の1人1台端末がより効果的に活用されると、図書館目録やおすすめの本を見て、学校図書館で本を借りたり、調べ学習がより活用しやすくなると思います。予算のかかることなので難しいと思いますが、一応考えとして記述しました。</p>	<p>貴重なご意見として、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4、5章と第6章の違いが一読してわかりづらかったです。</li> <li>・探究学習指導や英語多読に関することでお手伝いできることがありましたら、おっしゃってください。コロナ前には調布市の小学校の司書さんたちが本校に見学にきたりしたこともありますので、そういう部分でもお手伝いできるかと思います。</li> </ul>	<p>書式については、第5次計画策定時に検討します。</p>